

# 心臓造影CT検査のご説明

## 心臓造影CT検査の流れ

1. ピグアナイド系糖尿病治療薬を内服中であれば、2日前からの中止が必要です。
2. 検査当日は、予約の2時間前までに来院し、受付後、内科処置室に来て下さい。食事は3時間前から控えて下さい。
3. 問診、Vital測定
4. 心拍数が70以上であればセロケン40mgを内服します。内服から2時間後に撮影となります。
5. 血液検査（BUN、Cre）を行います。
6. 循環器内科医からの検査説明、同意書取得があります。
7. 撮影前に右肘から造影剤注入のための点滴を行います。
8. 血圧が120mmHg以上であればミオコルスプレーを2push行います。
9. 息止めの合図に合わせて練習を行います。息止めの時間は10秒から15秒です。
10. 撮影があります。
11. 撮影後は15分ほど様子を見て帰宅になります。
12. 検査結果は後日（おおむね翌日）にかかりつけの先生に郵送致します。かかりつけ医で説明を受けて下さい。

## 心臓造影CT検査とは？

**造影剤**を腕の静脈から入れながら心臓を撮影する検査です。撮影時の心拍数が低く冠動脈が十分に拡張している方がより精度の高い検査ができます。このため、検査時に脈拍数を抑える薬（**β遮断薬**）の内服、冠動脈を拡張させる**ニトログリセリン**の口腔内噴射をすることがあります。また、呼吸による動きも検査の妨げとなりますので、撮影の前に息止めの練習をします。息を止める時間は10～15秒です。

### 1.造影剤について

腕のできるだけ太い静脈から注入します。注入後しばらくすると身体の内側から熱感が生じますが、心配ありません。造影剤は腎臓から排泄されますので、検査前および検査後に水分を十分に摂取するようにしてください。蕁麻疹や気分不快など軽症の副作用は500人に1人、ショックなど重症の副作用は25,000人に1人の頻度で生じると言われています。

### 2.β遮断薬について

内服すると、1時間くらいで心拍数が減少し、2時間半ほど効果が続きます。血圧が下がる場合もあります。気管支喘息、心機能低下（心不全）の方には使用できません。

### 3.ニトログリセリン

冠動脈を拡張させる薬です。検査の5分前に口腔内に噴霧します。心拍数が少し早まり、動悸を感じることがありますが、5分くらいで落ち着きます。

## 心臓造影CTが撮影不可となる例

- 1) 不整脈（高度の頻脈（安静時100分/分以上、頻回な期外収縮、心拍数の多い心房細動など）
- 2) 腎機能障害（軽症も含む）（検査を受ける方は原則としてeGFR＞60ml/分、もしくは血清クレアチニン＜1.0mg/dlであることが望ましい）
- 3) 呼吸停止ができない、または患者本人が検査内容を理解できない
- 4) 高度石灰化（単純レントゲンにて冠動脈に一致して高度石灰化が認められる場合）
- 5) 直径2.5mm以下の冠動脈内ステントの内腔
- 6) 造影剤を高速注入できるルート（通常は右肘静脈）が確保できない等
- 7) 一部のペースメーカー（すべてのペースメーカーは撮影時に心拍数の調整が必要な場合がありますので、留置されている場合は必ず記入して下さい。）
- 8) βブロッカーや硝酸剤を使用できない